

辻泰弘 国会ニュース

つじ やす ひろ Kokkai News 2008年3月3日 NO.66

道路特定財源の一般財源化を!

「国会で、与野党対立が激しさを増している揮発油税の暫定税率問題。民主党兵庫県連代表の辻参議院議員に廃止の主張の根拠を尋ねた。」
2月28日の神戸新聞に掲載された辻泰弘に対するインタビュー記事です。参議院の財政金融委員会で繰り広げられる攻防。乞うご期待!!



道路特定財源の是非

「なぜ、暫定税率廃止なのか」

道路整備がある程度進んできている中で、社会保障など課題は山積している。道路特定財源を医療、年金、福祉、雇用、労働、教育などにも使えるよう一般財源化することが必要だ。患者を救急搬送する道は造ったが、救急病院がない、医師がいらないということであれば困ってしまう。

一般財源化を主張する以上、使い道を道路整備に限定し、ガソリン税に上乗せした「暫定」の税率を残す理由はない。ガソリン価格の高騰で国民の負担は非常に大きく、価格が下がることによる経済効果も期待できる。
「暫定税率廃止による地方減収分は九千億円。どう手当てするのか」
国直轄の公共事業に対する地方負担金制度を廃止すれば、地方全体の負

社会保障にも回すべき

民主党兵庫県連代表

辻泰弘氏

担は一兆円程度軽減され、それに対応できる。負担金は主に都道府県が負担しており、市町村は制度が廃止されても負担軽減のメリットが小さいという指摘があるが、それは、都道府県と市町村の自治体間で調整してもらう。調整できるような党として法案を出そうとしている。国から地方への道路関連の臨時整備交付金や補助金計一・二兆円も今まで通り確保する。地方に迷惑はかけない。

「ガソリン価格が下がり消費量が増えれば、地球環境に負担がかかるのでは」
道路を造るということ

は、そこを車が走り、環境を汚染する結果になる。高い税金を取っても

使い道が道路に限定されるなら、その主張は論理的に合わない。暫定税率を維持することが、本当に環境保全に効果を発揮するかは疑問だ。
「党内の足並みの乱れが表面化しているが、政党として当然、いろいろな政策で幅広い議論があり、政府・与党サイドと意見を同じくする議員がいても不自然ではない。ただ、民主党の議員として政権交代を目指している立場ながら、暫定税率維持に賛成する集会に出向き、与党議員と行動をともにするのは首をかしげる。(党の方針と)できるだけ一体的な行動を取らなければならない」と信じている。
(聞き手・小川康介)

☆☆☆ ご意見・ご要望等は下記までお気軽にご連絡ください。 ☆☆☆